

## 「制作・キュレーション・批評」

(2024年2月8日@鹿児島大学ラーニング・コモンズ1) 報告

法文学部人文学科多元地域文化コース 准教授 太田 純貴

「地域とアートの相互作用を発掘・検証しその可能性を探究するプロジェクト」の一環として、トークイベント「制作・キュレーション・批評」を開催した。開催の契機となったのは、熊本市現代美術館での《遠距離現在 Universal/Remote》展の開催(2023年10月7日~12月17日)である。これまでのイベントにもご協力をいただいていた鹿児島出身・在住の美術作家・木浦奈津子氏による同展覧会への作品の出展、熊本市現代美術館学芸員・坂本顕子氏の「地域とアートと教育」(2023年12月1日開催)への登壇、同展覧会を鑑賞した学生の存在などが重なったため、同展覧会を焦点に地域とアートの関わりについて意見交換できる場を設定した。

本イベントは前後半の二部構成で行われた。前半は木浦氏、木浦氏の活動を熟知し鹿児島で活動するインディペンデント・キュレーターの原田真紀氏、太田による話題提供を行った。後半では主に、学生と登壇者の意見交換を行った。

前半では、太田からは、《遠距離現在》展や批判としての批評について概略的に語られたのち、近年のメディア理論の見地——特に物質や労働と関わる見地——から同展覧会について話題が提供された。原田氏からは、Covid-19のパンデミック以前以後における展覧会やその開催形態の変動について話題が提供された。木浦氏からは制作(者)という見地から、出展の経緯、作品や展示配置の意図、キュレーションされる対象としてのアーティストといった点について話題が提供された。

後半では、小林陽太郎氏、緒方鳳人氏、志垣慶花氏(すべての地域社会コース)を

中心に、同展覧会の批判的解釈、同展覧会の鑑賞経験を踏まえつつ展覧会と理念に関する質疑や、地域とアートの関係を問うようなイベントの意義などについて知見交換を行った。最終的にはフロア全体で議論を行った。

本イベントは部分的に学生主体で進行や質疑を行なってもらったが、的確に対応していただいた。学生を主体としたイベント開催の可能性も強く感じさせる機会にもなったように思われる。

「鹿児島の近現代」教育センター 令和5年度地域マネジメント教育研究プロジェクト  
無料/入退室自由

2/8 Thurs. 14:30-16:40  
@鹿児島大学法文学部 ラーニングコモンズ1

### 制作・キュレーション・批評

14:30-15:30 話題提供  
・木浦奈津子(画家)  
・原田真紀(インディペンデント・キュレーター)  
・太田純貴(鹿児島大学教員)

15:40-16:40 鹿大生からの応答

2023年の10-12月に熊本市現代美術館で「遠距離現在」と題した展覧会が開催されました(2024年には東京と広島に巡回予定)。今回のトークイベントの前半では、同展覧会の出展作家の一人である木浦奈津子氏、インディペンデント・キュレーターの原田真紀氏を迎え、同展覧会にも触れつつ、制作・キュレーション・批評という立場から、アートに関する話題を提供します。後半では、展覧会やアートに関して興味を持つ鹿大生から質問や感想を受けて、参加者全体で議論を行います。  
また、2023年の10月から12月にかけて「アートと地域」を大枠としたトークイベントを、本学で3回に渡り開催しました。後半は3回のイベントを踏まえた総括的な質問や意見も、鹿大生からいただく予定です。

問い合わせ 鹿児島大学法文学部 太田純貴 | yota@leh.kagoshima-u.ac.jp  
JSPS21K00123

